

工業教育の研究活動の発展を願って

日本工業技術教育学会 会長 巽 公一

日本工業教育経営研究会、日本工業技術教育学会 第30回工業教育全国研究大会は、令和2年7月に近畿支部の主管により大阪において開催し、合わせて30周年の記念行事も行うことを予定していましたが、新型コロナウイルス流行の影響により、一堂に会しての開催は断念し、講演及び研究発表を誌上発表する形で行うことといたしました。

ご準備に当たられていた近畿支部の皆様、講演や研究発表を予定されていた皆様にはご迷惑をおかけすることになりましたが、何よりも感染防止が最重要であると考え、このような判断をいたしましたので、ご理解願います。

このような状況の中ですが、改めて、工業教育における教育実践、学校経営、研究活動等に熱心に取り組まれている会員の皆様、とりわけ研究発表に向けて取り組まれた皆様に敬意を表したいと存じます。

日本工業技術教育学会では、令和元年度に行われた第29回工業教育全国研究大会での研究成果等をもとに論文を投稿いただき、令和2年3月に学会誌「工業技術教育研究」(第25巻)を発刊するなど活動を継続しています。令和2年度においても学会誌への論文の投稿を受け付けていますので、多くの皆様の投稿をお待ちしています。

さて、学校教育においては、令和元年4月より新しい高等学校学習指導要領の移行措置が始まり、総則や一部教科等で新教育課程が適用されております。「社会に開かれた教育課程」のもと、教科等横断的な視点に立って教育課程の計画・実施・評価を行う「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業の工夫・改善などが求められています。

新学習指導要領に対応した学校改革や授業改善に取り組んでいる矢先に、コロナ禍に見舞われ、新学年早々に数か月の休校を余儀なくされ、学校再開後もソーシャルディスタンスの確保やマスク着用などの感染防止対策を講じながらの教育活動となりました。特に、工業教育においては、実験・実習や共同での研究活動、地域社会との交流を伴う学習活動など、人と人との密接にかかわる体験的な活動が多く行われることから、一層の配慮が求められ、各学校では様々な工夫を行っていることと思います。

本研究大会の研究発表の中には、「オンライン授業」などの新たな教育方法の実践報告もみられます。今後、各学校の教育実践から生み出されたウィズコロナのもとでの新しい教育方法の開発研究を行うことが期待されます。

今後とも、参加してよかったと感じていただけるような魅力ある研究会・学会とするために、各支部における日々の教育実践に基づいた教育研究を力強く支援してまいりたいと思います。日本工業教育経営研究会、日本工業技術教育学会のますますの発展を祈念してご挨拶いたします。